

## 9/17 (火) ミタリ×シテ×カタリ

Banjumrung 滞在 5 日目。

朝 8 時頃に起きて行動開始…しましたが、気づけば home に誰もいないという衝撃の事態でした。

9 時にコミュニティセンターに着いたものの、すでに朝食の時間は終わっていて、私たち 3 人のためだけにご飯が出てくるという申し訳なさでした。いつもの豚血豆腐入りスープに、ちょっと刺激がほしくてトウガラシの粉末を入れてみましたが、これが微妙に辛くてスープが全部飲めず…調子に乗るもんじゃないと反省です。

その後は、履修登録をやりつつ、今日何をやるか話し合いをしていましたが

ブンさんからラジオ放送のスタジオに入れるという情報を得て、センター内にある部屋におじゃましました。

中では、パドゥーンさんという方が動画編集をしていました。TV 番組風に作られた動画 (Banjumrung の紹介) は彼の新作で、ラジオ機材を用いて、センターのモニターに映し出すところでした。見知った人たちがインタビューされてるところが何だか面白かったです。

普段は、センターの会議室で行われる講演・セミナーなどの音声を、ラジオで村内に配信しているそうです。

そこを見つつ、辺りをウロウロしたり写真を撮ったり、センターの炊事場でスプーンがザルに刺さった状態で乾かしてあるのが妙に (私だけが) ツボだったりして

昼ごろには一旦部屋に帰り、少し休憩してからセンターに戻って昼食でした。昨日の団体様がちょうど食事を終えたところで、またまたタイミングがズレた時間…チャチャーイさんたちとテーブルを共にしました。ガビに苦手意識を持ってしまい、もはやノータッチを貫く私で本当にごめんなさい！

食事が終わって少しした時、チャチャーイさんとヴィロウさんに「エビの養殖場を見に行こう」と誘われ、オープンバスに乗って出発！

センターを出る前に、おじいちゃんと孫? が荷台付きバイク (屋根あり) に乗ってゆったり走っていくのを見て全力で和みました。また、何故か販売所にいるおばちゃんたちがバスの私たちを見て「ありがとう」と連呼していたのですが、これに対抗したチャチャーイさんが「あじのもと！」と叫んで、バス内は大爆笑でした(\*´▽`\*)

赤茶色の土 (ラトソル?) が印象的な小道を進んで、到着したのはとあるお宅でした。

ここには、6~7 個の巨大プール (養殖池) があり、それぞれにつき 700000 匹の小エビを飼育しているそうです。3 か月で成長し (現在 1 か月目)、海外に向けて輸出しているのだとか。

一家でこの規模…ここにくるまでに多くの養殖池を見ましたが、区域全体がそのようなものだとしたら、世界が消費するエビの量がどれほどなものか想像もつきません…

そして写真を撮るのに夢中になるあまり、泥水の中に足を突っ込んで、サンダルごと泥まみれびしょ濡れになるという悲劇が私を襲いました (笑)

バスに戻った後、その区域をドライブして回りました。

だだっ広い土地、どこまでも続く草原、赤茶けた道路の脇では野犬が走り、牛たちが優雅に草を食んでいる…時折やってくるスコールはご愛嬌。

何て素晴らしいんだろうと、ただただ感動するばかりでした。

センターに帰ってきてからは 5 時までおやつタイムでした。売店でコーラとお菓子を買いましたが、BBQ 味に惹かれて開けてみる

と、日本でよくある「BBQ味のポテトスティック」ではなく「うっすら塩気のあるポテトスティックにBBQソースの袋（液体）が入ってる」もので、シャカシャカポテトよろしくソースを入れて振って見たら、案の定手がベタベタになりました。日本のスナック菓子は何とクオリティが高いんでしょうか…

やがてブンさんが迎えに来たので、自転車に乗って移動。バイクに乗ったブンさんに「10km、1時間はかかるよ」と言われて、死ぬ覚悟で気合い入れたのですが、実際は1kmくらいしか走りませんでした。何というタイジョーク！

トゥッキェンさんという方とお会いしました。彼はゴム農園（共同）のリーダーであり、2年前から使っていない土地を利用して養殖業も始めたそうです。

- ・ナマズ池…10000匹/個、トータル3個の池。4ヶ月経つとマーケットへ送られ食用にされる。
- ・スッポン池…200匹/個、トータル3個の池。卵を毎日採り（専用の小屋でスッポンが卵を産む）、中国や台湾へ輸出
- ・アヒル小屋…現在、生後10日の幼鳥がいっぱい。生後80日でマーケットへ送られ、タイで食用にされる（一番美味しい時期らしい）。

夕食も彼の家でいただきました。激辛料理ばかりで、唯一辛くない海老ももはや口直しにすらならないレベルでした。

ウィスキーを飲みながら色々なことを語りましたが、中でもブンさんが熱く語ってくださったのは、村と日本の関係、そして私たちの未来について

「村に『勉強しに来る』じゃない。『リラックス』。リラックスした生活の中で学ぶことがあるだろう」

「本当に楽しいと思った人しかまたやって来ない。君たちには是非楽しんでいって、そしてまたここを訪れてほしい」

「タイと日本のよい関係を作ろう。君たちが大学を卒業して、私たちタイ人と日本人の架け橋になってくれたらいい。相互に物の受け渡しをして、みんなハッピー」

「お金があるのが重要じゃない。幸せなのが大切」

「サラリーをたくさん持つてる生活なんかより、アクティブに動いて色んなところで繋がりを作る方が、お金がなくても楽しい」

「日本のみんなに伝えてほしい。タイにおいでよ、1週間くらいのリラックス旅！バンコクやアユタヤなんかを回って、そしてこの村に来る。素晴らしい！」

…もっとたくさんのお話を聞いたのですが、まとめるとこんな感じでした。

「タムダイ（できるよ）！」と繰り返すブンさん、それに頷くトゥッキェンさん…酔っ払っていたのもありますが、それはそれで楽しそうだなと思いました（´▽`）

でも、タイ人ではなく、日本人と結婚させてください…（笑）

また、日本名は難しいということで、ブンさんにタイの名前を考えてもらう話があったのですが、希呼や浅山ちゃんには日本名の意味→タイ名がついたのに、私の番では「Yuiは…Yuiだな」と華麗にスルーされて苦笑するしかありませんでした。

やっぱりタイでも覚えやすい＝タイでもよくある名前だからそのままでも通用する…のですね。嬉しいやら悲しいやらです。

明日も頑張ります。